

富士見えぬ日のつづきを桜に芽

山田真砂年

天候不順のつづく春先、不満げに空を仰いだ先に偶々桜の枝があつたのだらう。「俳人には「生憎」ということがない」という上田五千石の言葉を思い出させる作。